



	市 内		市 外	
	未就学児	就学児	未就学児	就学児
溶連菌	78	85	92	59
アデノウイルス	15			1
手足口病・MMV(びんご)	1		2	
RSウイルス	1		2	
伝染性紅斑(りんご病)	3	9	1	1
インフルエンザA		1		1

X'mas や冬休み！楽しいイベントがいっぱいの12月。風邪やインフルエンザに気をつけて、元気に新年2019年を迎えたいですね。

《 ノロウイルスについて 》

ノロウイルスは冬場を中心に流行する感染性胃腸炎の原因ウイルスの一種です。ノロウイルスは人の口から体内に入って、腸の細胞内で増殖し、嘔吐や下痢など急性胃腸炎を発症させます。

ウイルス検査を実施するには便検体が必要になります。検査をご希望の場合は、必ず、便を密閉容器に入れて医療機関にお持ちください。

＜ ノロウイルスの感染防止 ＞

ノロウイルスは感染力が強い為、感染者の糞便中のウイルス以外にも、嘔吐時に飛沫したごく少量のウイルスや、嘔吐をした人のくしゃみや咳のほか、感染者が手を洗わずに触れた物に付着した僅かな量のウイルスが体内に入っただけでも感染します。感染者のお世話をする看護者はマスクや使い捨て手袋等の个人防护具を正しく装着して、自分自身を守る必要があります。

子ども達には年齢に応じた正しい手洗い方法の指導が必要です。

※ノロウイルスには通常の手指消毒アルコールは十分な効果が期待できませんので注意が必要です。

＜ おむつ交換の手順 ＞

おむつの交換は、飲食物や調理器具と交叉接触しない箇所で行いましょう。

ウイルス性胃腸炎の流行期には、一見、健康そうに見えるお子さんの便中にも胃腸炎ウイルスが残存していることが多々あります。保育施設では下痢症状のない健康な児も含めたすべてのお子さんのおむつ交換の際には、使い捨て手袋を使用し、手袋をはずしたら必ず手を洗うことが大切です。また、おむつやおしり拭きや使用した手袋等はすべてビニール袋に入れて密閉して処分しましょう。

＜ 吐物の処理 ＞



お子さんが室内で嘔吐した場合、速やかに正しく処理を行わないと、乾燥した吐物の粒子が室内に拡散し、同室内にいる人に感染を広げてしまう恐れがあります。まずは、しっかりと換気をしながら、手袋をして、ティッシュやトイレットペーパー等で吐物を広げないように集めて、ビニール袋に入れて密閉しましょう。また、汚染箇所は速やかに次亜塩素酸ナトリウム(ミルトンやピューラックス等)で消毒しましょう。汚染されたリネン類も次亜塩素酸ナトリウム(キッチンハイター等)で消毒・漬け置き洗いしてから洗濯することが大切です。

もちろん、手袋を外したら必ず手を洗うことが大切です。

しるやぎさんのポシェットのお部屋から



クリスマスシーズン到来。しるやぎさんのポシェットでもX'masを楽しんでいます。

ご利用になるお子さん達をお出迎えるのはペンギンサンタクロース!!

「もうすぐX'masだよ～。サンタさんがプレゼント準備してるからね～」3羽で楽しくお話していそうです。保育中の工作で作ったマトリョーシカ。小学生のお友達が紙コップや色紙で作りました。サンタさんの中に雪ダルマとツリーが入っていました。素敵♡。



《 咳が出る時の看護について 》

冬です。すっかり寒くなりましたね。この時期のしるやぎさんのポシェットには、ゼーゼー・ヒューヒュー、咳がでるお子さんが多くいらっしゃいます。

- 寝る時に咳がひどくてぐっすり眠れない。
- はしゃいで動くとゴホゴホしてしまう。
- 食べると咳込んで吐いてしまう。

そんな時にはお薬の内服や吸入は勿論大切ですが、他にもちょっとしたコツで咳がラクになる場合があります。

① 環境・体位の調整

乾燥した空気は気道を刺激して咳が増えます。室内の温度と湿度を調整します。また、お子さんの体の向きを工夫して、横臥位で膝を曲げる or テーブルの上に腕を乗せて寄りかかる姿勢にしたり、赤ちゃんは立て抱きにしてあげると、ラクに過ごせる場合があります。これらの体位はお子さんの横隔膜を下方に下げること、呼吸面積を広げてラクにすると言われていました。

② 水分・栄養の補給

痰を出しやすくするためにも、水分摂取は必要です。食事は消化の良いものを少しずつ勧めてみましょう。咳込んで吐きやすい場合は1回の摂取量を少なくして与える回数を増やしましょう。

③ 痰を出す援助

年長児以上は、咳払いをさせると痰を出せるようになるので、呼吸に合わせて軽く(痛がらない程度に!)トントンしてあげると良いでしょう。乳幼児は抱っこして背中をさすってあげましょう。いずれの場合もミルクや食事の後は避けて、寝る前にやってあげるとゆっくり眠れて効果的です。

④ 不安の軽減

不安や緊張は呼吸困難感を増やします。優しく声を掛けて気分転換が図れるような雰囲気づくりを心がけましょう。乳幼児は抱っこしてあげることで安心感が得られます。

